

## 作業療法科

科長 仲川 健

---

### はじめに

2020年は、9名体制（1名育児休暇）での運用を開始。グループ内での人事異動においては、1月と7月に近森病院・近森リハビリテーション病院とをそれぞれ1名実施する。また、4月に新人1名を受け入れ、7月には育児休業からの現場復帰が1名あった。2020年12月最終の体制では、9名での運用を終えることができた。

部署目標として今年は、スタッフ1人1日あたりの実施単位数を18単位以上と目標を設定し取り組み実施した。臨床実習生の受け入れについては、全国的な新型コロナウイルス感染症拡大のためすべての臨床実習を中止とし院内の感染対策への取り組みを強化した。

### 実績

2020年1月～12月の年間総単位数は、28,314単位。月別平均単位数は、2,359単位であった。（図1）入院におけるOT処方延べ件数は、190件。前年と比べ8件増となり、月平均としては15.8件の処方数であった。外来リハビリ実施者延べ件数は、1,484件。前年と比べ372件の減少となっており新型コロナウイルス症の感染拡大が影響していることが伺える。（図2）

年代別内訳では、80代が83例。70代が46例。90代が30例。75歳以上の後期高齢者が55名。85歳以上の超高齢者が84名と75歳以上は、前年と同様に処方延べ件数の約3/4を占めていた。（図3）

病棟別の一般・回復期病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ7,904名。単位数は、19,192単位。（図4）地域包括ケア病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ2,447名。単位数は、6,121単位。（図5）患者一人あたりの単位数（作業療法のみ）では、一般・回復期病棟が月平均2.3単位。地域包括ケア病棟では、2.4単位であった。

疾患別リハビリでは、運動器疾患が96%。脳血管疾患が4%であった。（図6）処方内訳は、大腿骨頸部骨折・転子部骨折等の下肢骨折が69例の36%。次いで上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折等の上肢骨折が47例の25%。腰椎圧迫骨折や脊椎・骨盤骨折等が28例の15%。肩腱板断裂や脱臼骨折等の筋腱靭帯損傷が21例の11%であった。（図7）

### 2021年方針

教育では、キャリアラダーを策定し、質の高い医療の提供を実現していく。臨床では、入院患者における日常生活の早期自立と自宅や地域での活動が行えるように早期退院支援を実施していく。また、外来では上肢骨折や腱板損傷へのOTの関わりを再確認し、満足して頂いた状態で終了できるよう目指していく。

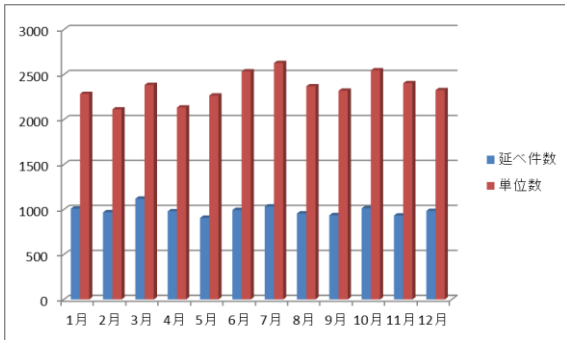


図1 月別実施単位数

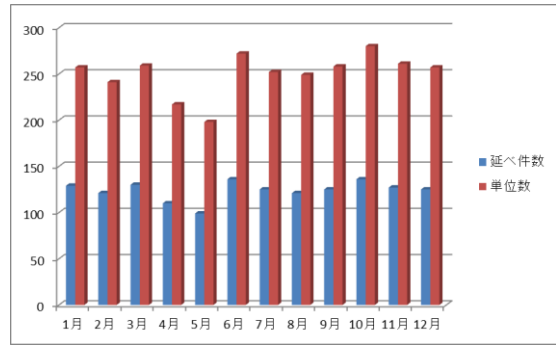


図2 外来実施者数と単位数

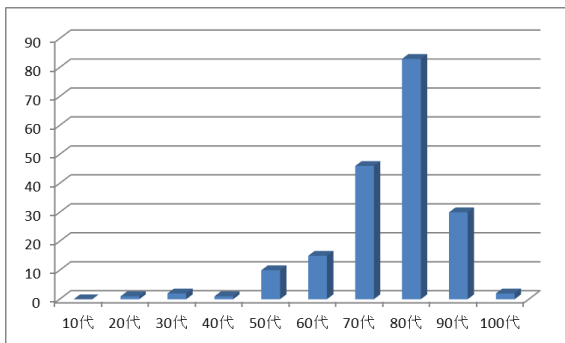


図3 年代別

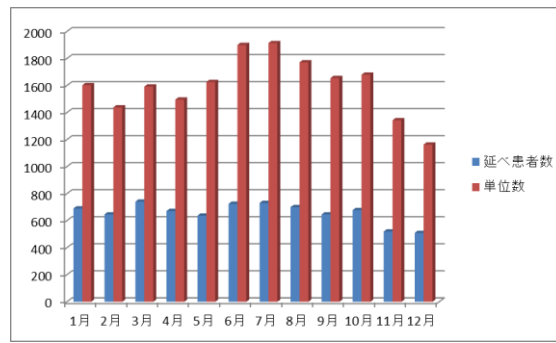


図4 一般・回復期病棟実施者数と単位数

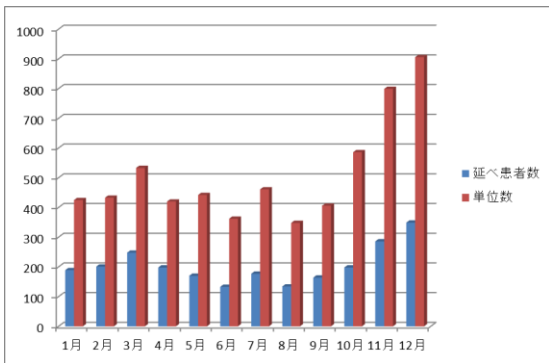


図5 地域包括ケア病棟実施者数と単位数

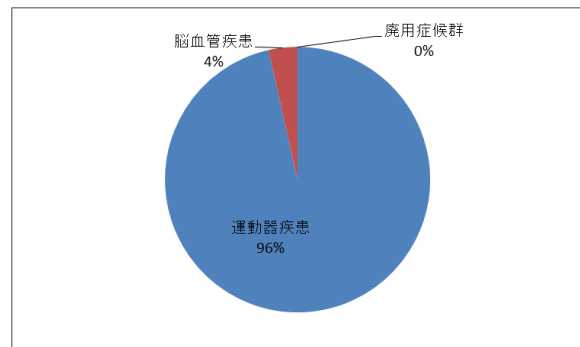


図6 疾患別リハビリ

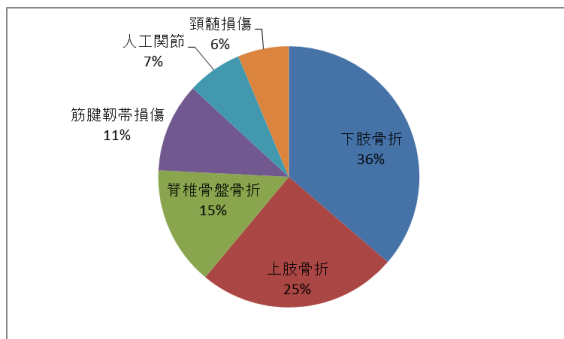


図7 処方内訳